

子ども親も保育士も幸せになる保育の共創～子どもファーストによる良質な保育を提供する E-ほいくプロジェクト～

応募チーム名：E-ほいくプロジェクト Lab. 自治体：滋賀県大津市

(特徴)

一億総活躍社会の実現や女性の就労率増加などを背景に、国や自治体はここ数年、保育施設の充実にか力を入れてきたが、それに伴う保育士の確保（増員）は十分とはいえない状況にある。その背景には、保育士の働く環境が必ずしも魅力的とはいえない状態にあることに起因している。原因を紐解くと、①保育士としては、子どもに直接関わる業務に力を注ぎたいが、現実にはそれ以外の間接的な業務に時間を取られることが多いこと、②保育士の能力が理解されにくく、それが給与水準にも影響していること、などである。そこでこのアイデアでは、①保育の本来業務に集中できる仕事の環境を整備する、②保育の質を可視化し、その向上につなげることを柱として、左の4つの新たな

1. 「保育間接事務」の請負事業の創設による保育士本来業務の支援
2. 保育士専管業務支える安心・安全な保育へのデジタル技術の活用
3. モチベーション向上と保育の質の向上を目指した「保育士キャリアパス」の創設
4. 保育園の質を見える化するため「保育園評価制度」を創設

仕組みを考案した。これからの保育環境を整備するうえで、大変貴重な提案であるといえることができる。

(アドバイス)

1. 実現可能な具体的な手順の構築と小さい実証を試みる。

提案の背景にある保育士業務や保育施設の経営の実態の調査分析をさらに進め、真に保育環境に優れた保育士（モチベーションを含む）や保育施設の在り方を踏まえた、実現可能な具体的な手順を描き、関係者の理解と協力の増進に努めてはいかがでしょうか。そのうえで、実際の改善につなげることが重要で、例えばチームリーダーの園で実証をして内容のステップアップしていくことも一案かと思います。

2. 社会的な保育士の理解増進を進めるため『保育×何々』を考える多様なワークショップを開催する。

例えば、①『保育×現役保育士&保育を学ぶ学生』（現状把握と就職に繋げる）、②『保育×保育士&保護者』（保育士の働き方と保護者の事情、お互いの理解を深める）、③『専門職として働く×潜在保育士と潜在看護師』（看護師や他の職業でも、資格はあるが現在働いていない人。なぜ就労しないのか共通項を探る）、④『保育×他職種』（他職種の働き方を知り、保育士のそれを考える）などで。その際、1. の結果を2. のワークショップに持ち込むなどの工夫をして、1. と2. が連動して進むことを期待いたします。

3. 草津市の応募プロジェクト「めざめ保育士応援隊」との連携を図る。

草津市の「めざめ保育士応援隊」と大津市の「E-ほいくプロジェクト Lab.」は目指すところは同じで、両者があい携えて進んでいけば複合的な効果があると思われます。そして、時期を見て大津市と草津市など自治体間の協力も期待したいところです。

4. 市役所への期待

このプロジェクトが成功すれば、保育環境の整備にとどまらず、市民ニーズをもとにした市役所と市民の協働による新たなプロジェクトの発掘と進め方の手本ともなると思います。そして、他の分野でもオープンガバナンスの取り組みが広がることを期待したいと思います。